

令和2年度第1回白河市総合教育会議

議事録

1 日 程 令和2年8月21日(金)

2 場 所 白河市役所 4階 全員協議会室

3 開 会 午後1時30分

4 出席者

(1) 構成員

職名		氏名
市 長		鈴木 和夫
教育委員会	教 育 長	芳賀 祐司
	教育長職務代理者	金子 英昭
	委 員	北條 睦子
	委 員	沼田 鮎美
	委 員	瀧澤 学

(2) 市職員

職名	氏名
市長公室長	鈴木 敏明
市長公室企画政策課長	深町 洋介
市長公室企画政策課主幹兼課長補佐兼企画政策係長	渡邊 正俊
市長公室企画政策課企画政策係主査	水野谷 千春
教育委員会事務局理事兼教育次長	水野谷 茂
教育委員会事務局教育総務課長	田崎 修二
教育委員会事務局学校教育課長	加藤 正行
教育委員会事務局学校教育課指導主事	石塚 隆広

5 議 事

(1) アフターコロナを見据えて

・GIGA スクール構想について

(2) その他

6 閉 会 午後2時45分

1. 開会

- 事務局（司会） 令和2年度第1回白河市総合教育会議を開催する。
原則通り会議を公開とし、傍聴を許可する。

2. 議事（1）アフターコロナを見据えて ・ GIGA スクール構想について

- 事務局（司会） 白河市総合教育会議設置要綱第4条第3項の規定により会議の議長は市長とする。

- 鈴木市長 議事（1）の「GIGA スクール構想」について、事務局より説明を求めます。

- 事務局 小・中学校授業におけるタブレットの活用について3つの観点でお話いたします。

1つ目は、授業支援で、これまで教師が授業を行ってきたツールとして活用していきます。タブレットで、静止画だけでなく動画や音声のある鮮明な資料を見ることができ、加えて資料印刷時間と配布時間の削減につながります。

2つ目は、協働学習として皆で話し合い学習をする場合に活用していきます。教師が教室内を回って子どもたちの考えを確認していたものが、生徒がタブレットで先生に送信するという方法に変わります。生徒の考えをモニターやプロジェクターに映し出し、それを基に皆で話し合うことができます。

3つ目は、個別学習・ドリル学習という観点になります。児童生徒が自分で発表資料を作成でき、また、調べ学習では一人ひとりインターネットを活用することで、調べやすくなります。また、タブレットの中に小学校であれば1年生から6年生までのドリルが入りますので、例えば6年生が5年生の勉強を振り返りたいという時には、簡便に復習をすることができます。新型コロナウイルス感染症の影響で学校が休校になった場合でも、タブレットを持ち帰ることによって、ドリルに取り組むことができます。これまでより、学習の幅が広がります。

実際の体験を基にした学習も大切していかなければならないと思いますが、新しいツールを使って、新しい学習の仕方を身に付けていくこともまた大切なものであると考えます。

- 市長 皆様のご意見を伺います。

- 瀧澤委員 私からは、商売からの視点でお話しさせていただきます。アフターコロナについては、おそらく経済はいい方向にはなっていないと思います。世界中が新型コロナウイルス感染を起こしている中で、一気に収束するとは考えにくいことです。予防や衛生の知識がすごく高まり、働き方も変わっていきます。

お金もキャッシュレスが進み、無人店舗やAIの活用などが出てくると思います。

また、GIGA スクールに関してですが、子どもたちはすごく対応できるのではないかと考えています。それより先生たちが対応できるか、少しずつ早めに準備を進めていく方が良いと思います。

○沼田委員 タブレットの活用は、無限大の可能性を感じています。あと10年後には教科書がなくなる時代がくるのではないかと考えています。

今、私の立場でお話しさせていただくと、今回、新型コロナウイルスの影響で在宅ワークになりましたが、その時、家で仕事と家事が両立できたので、こういう働き方もあるのだと新たに感じました。そうすると、都市部から地方への流れが起きたり、どこでも仕事ができたりするようになると思います。今まで時間をかけてきたものが変わり、さらにクリエイティブな仕事が増えてくるのではないかと考えています。子どもたちは、そういう社会を生きていくことになるので、ICT教育に力を入れていかなければならないと思います。都市部と地方のボーダレス化が進めば、白河でどんどん働こうと思う人たちが増えてくると思います。

○北條委員 児童個々の進め方ができるタブレットの活用は、利点が多いと思っています。今の児童生徒たちは、生まれたときからデジタルの環境にいますので、すごく楽しくできると思います。

また、先生の働き過ぎの問題もありますが、タブレットにアプリを入れて、先生の操作スキルさえあれば授業の準備が楽になると思います。

自分の意思を表に出せない生徒がたくさんいると思います。その場合、タブレットで意思表示させることもできると思います。

もう1つ、中学生の自主学習では、何をするのか分かっている生徒はすぐに取りかかれますが、何をしたいのか分からない生徒は、何をすべきか悩むことに時間を費やしてしまいます。そういった場合、タブレットがあれば、興味あることをすぐに調べられるため、取り組みやすくなると思います。

○金子委員 GIGA スクール構想では、膨大な規模の予算をかけて、人を配置したり、機械を購入したりしています。これから5～10年で日本の教育のあり方が大きく変わるのではないかと印象です。日本の教育は、昔から寺子屋など人と接する中で行われてきましたが、そういう流れがここで大きく変わると思います。メリットはすごくあると思います。

30年前、パソコンの導入に伴い、パソコン室が作られ、技術や数学、理科などで使われましたが、頻繁に活用されるものではなく、技術・家庭科の一環として使用してきました。今回、タブレットが導入され、上手く使えば、その

マイナス面も改善できるのではないかと思います。画像の表示、調べ学習、プレゼン力の向上など期待できることもあります。

ただ一方で、昔から今の子どもたちは実体験が少ないと言われていています。学校では、自然体験や集団活動に力を入れてきました。これから益々これらにも並行して力を入れていく必要があると思います。

ぜひ、教科書にある QR コードを活用し、普段では見られない映像や音声、ネイティブな英語に触れたりしてほしいです。

先生方が、どのようなプランを立てて、機器を使って効果的にやっていくかが問題になってくると思います。

○**教育長** 今回、新型コロナウイルス感染症の影響で休校になりましたが、外国ではオンライン授業ができていて、休校がスムーズにいった一方で、日本での ICT 教育はすごく遅れていたことに気づかされました。これから、ICT の機器を使った教育を推進し、遠隔での授業など、実現していかなければならなくなってまいります。そして、これからの子どもたちは、ICT を活用する技術を身に付けていかなければならないので、学校の中で教師が ICT を教えていくことが重要になっていくと思います。

子どもたちがタブレットをきちんと使いこなせるようにすることが、これからの大きな課題であり、それを指導していくのは先生ですので、先生方の指導力の向上も重要であります。先生が、タブレットを使っていろいろ調べていく中で、安易に誘導してしまい、子どもたちが自ら考えることができなくなってしまったり、体験したりすることが疎かになってしまうかもしれません。やはり、そこは先生がきちんとコントロールしていかなければならないと思います。

また、たくさんの情報があふれていますので、子どもたちが正しい情報を選択する力を身につける必要があります。今、ネット上で様々な誹謗中傷がありますので、情報モラルの問題にも力を入れていく必要があります。

私たちは、機材のタブレットを用いて多くのことを学んだりしますが、それ以上に自ら体験して学んだり、偉人や先輩から学んだり、人と生活し、人と関わりながら生きていきます。人と人との関わりは学校教育の中で欠かせないものです。

また、教師が ICT を活用できる力、すなわち、どの場面で、どのように活用して子どもたちの力を伸ばすかという授業技術を磨いていかなければならないという課題があります。

○**市長** GIGA スクール構想という難しい言葉で言っていますが、これからどんどん AI や ICT の活用をしていくことだと思います。教育長が述べましたように課題もいくつかあります。スキルを身につけていくのは当然だと思います。

家庭環境でもそうだと思います。しかし、貧富の差に影響してしまうので、学校で一定の標準化をする必要があります。

今後、ICT化が格段に早いスピードで進んでいくと思います。これを指導する先生の問題、リアル体験の少なさ、また、情報が氾濫しているので、正しい情報を判断する能力が大事になってきます。また、AI学習だけでなく、感性も養っていく必要もありますので、子どもたちの知識を習得する能力は以前にも増して問われます。

議論していくべきことは、ICTの活用は当然進めていくことですので、同時に子どもたちに何を教えていけば良いですかということだと思います。

○**沼田委員** 子どもたちを見ていますと、受身ではなく、何かを学ぼうとする力を備えていると思います。実体験が少なくなることは間違いないと思います。農業にしても、スマート農業が出てきているので、何かを感じ取ってその先へ進んでいけるのではないかと思います。

○**市長** 確かに、子どもたちは、ネットで見ても何かを感じるものがあると思います。

しかし、現在、大学などでは、オンライン授業となり、学校に行っていない状況があります。そもそも学校に行かなくて、学校と言えるのだろうか。根本的な問題になってきてしまいます。

○**金子委員** 時代は変わっていくものだと思います。今の私たちの感覚では、想像ができない時代がくる気がします。それで良いのか悪いのかというのは、今の私たちから考えれば潔しとしないことがあると思いますが、その時の人間にとってはそれが合っているのかもしれない。私は、「警咳に接する」(※)という言葉が大好きであり、そこが根本だと思います。しかし、そう感じない人も多くなっています。感性や直感、教養など、なおざりにされていると思います。教育は、教養を身に付けるためにあるのだと言われてきました。乳幼児から幼少、10歳ぐらいまでは、愛情をいっぱい注ぎ、豊かな心を育む、そういった努力もしてあげてほしいです。そうすれば、豊かな感情ができるのではないかとそう願っています。

(※)「警咳に接する」(読み：ケイガイニセッスル)とは
…尊敬する人に直接話を聞く。直接、お目にかかる。
面会すること、会うことの敬称。

○**市長** 教育論からいきますと、GIGAスクール構想により、だいぶ教育の概念が変わっていくと思います。

○北條委員 子どもは、情報をたくさん持っていて、経験より知識が勝っているので、何でも情報で頭でっかちにならないようにしてほしいです。

○市長 そういう心配もあります。ICTを使うことは、手段であります。ICTで時間が短縮できるわけですから、そういった時間をどこに費やすかも問題になってきます。

○瀧澤委員 ICT教育に関しては、本当にこれで大丈夫かという気持ちはありません。優秀な教育を受けても、将来どうなるかは分からないと思います。今は、褒めて育てると言われていますが、それが良いか、怒られて反発心で育つ方がよいのかもわからないところであります。順応して良くなることもありますので、デメリットも存在しますが、GIGAスクール構想の中でやりながら対応していく部分も必要であると思います。

○市長 机に向かっているだけではダメだと思います。音楽やスポーツなどで感性を高め、教養を身に付けていってほしいと思います。先生方にお願いしたいことは、技術を教えるだけ、職人にならないでください。ICTを使って何を教えるのかだと思います。一番大事な時、危機が迫った時に必要なのは、教養だと思います。そういったことが、GIGAスクール構想の中で先生方が教えられるのかどうか、またデジタル化が進むのであれば、アナログなものも考えていかなければならない。デジタルとアナログのバランスが必要になってきます。

日本のICTが遅れていることばかり強調されていますが、もっと総合的に考えた方がいいと思います。

○事務局 その子どもそれぞれの発達の時期に必要なものを大切にしていきたいと思います。英語が使えるようになったとしたら、英語を使って何を伝えるのかがしっかり身に付いた子どもにしたいと思います。同様に、ICTを使って何をするのか、それができる子どもにするためには、教師がしっかりしたものを持って指導することが大切だと思います。

○市長 何のためのICTなのか、何のために勉強したのか分からなくなってしまう、ICTは手段であって目的ではないので、何を教えていくか考えていく必要があると思います。

○教育長 学校とは何なのかと言われているような気がします。例えば、オンライン授業をしていれば学校に来なくてもいいのか。でも、休校が明けて、学校

が再開された時、今まで以上に子どもたちは友だちと休み時間に遊んでいました。学校の中では、人と人の関わりが一番大事だと思います。ICT 教育、GIGA スクール構想を進めながらも、学校では一番大事なことは何なのかを振り返りながら教育していかなければならないと思います。

○市長 アフターコロナとして議題にしましたが、今後のことは誰もが分からないものであります。自分たちの感性を信じて判断していかなければならないと思います。

3. 閉会

○事務局（司会）

令和2年度第1回白河市総合教育会議を閉会。